

【水と共存】

千葉県 船橋市立宮本中学校 三年 新行内 柚乃

私は水泳が好きだ。けれど周りの友達には、水泳が好きではない。その根拠を聞いてみたところ、「水が怖くて、泳げないから。」と答える人が多かった。私にとつては、ものすごい衝撃的な理由で、悲しくなった。その時ふと、似たような衝撃を受けたことを思い出した。

社会科の授業のときに、先生が言った言葉であった。

「南アフリカの子どもたちは、じゃ口をひねると綺麗な水が出る日本とは違って、約八時間をかけて家族のために川から水を、毎日くんできまです。日本のような安全で、かつ、綺麗な水ではなく、むしろ、危険でにごった汚い水です。」

この先生の発言に、衝撃を受けない人はいないと思う。同じ地球に、同じ人間で、同じ年齢の子が教育を受けずに水をくむのに時間を割いているのだ。ましてや、時間をかけて水をくんできても、その水は不衛生なのである。

人はおよそ七〇パーセントが水分でできているという。だから、世界中の人々は水を飲まなければならない。けれど、南アフリカの人々は、水は水でも不衛生な水を飲んで、命を落とすという人が何万人というそうだ。私は胸が苦しくなった。生きていくために飲んだ水が、自分たちに牙を向け、命を奪っていく。そのことを分かっているながらも、汚い水を飲むということは、やはり生命維持のために水は、必要不可欠だということになる。このとき私は、普段飲んだり、使ったりしている水が、自分達の命を左右する貴重なものだとして理解することができた。

私は以前に一度、断水を経験したことがある。父の実家に帰省をしていて、約二日間程度水が使えなかった。それは、本当に不便だった。すぐに水を飲みたいときに飲めないし、手を洗うことすらできなかった。

この際に家族と、「水はやっぱり大切なものだね。これからは感謝しながら使っていかなないとだね。」

と語り合ったのを今でも覚えている。その日から、水に対しての意識が変わっていった。ほんのわずかな時間でも、水を使わないときは水を止めておくこと。前まで、水を出しっ放しにしていた自分が馬鹿馬鹿しく感じる。

けれど、こんな行動をたかが一人で行うのは、どれだけ努力をしたとしても、豆つぶよりもはるかに小さい結果しか得られない。だからこそ、世界中の一人一人が意識をし、行動をおこすことが、今後のためにもなるし、地球に対しても優しいことだと思う。

それに何より私は、南アフリカの人々を助けてあげたい。テレビのコマーシャルで見た、アフリカの子どもたちの、綺麗な水を見て、触ったときの笑顔。あの笑顔は今でも私の心の中にいる。私は南アフリカの人々を汚い水のせいで死なせたくない。最期は誰だって、悔いの無いように終わりたい。だから、私は将来世界中の人々を助けられる仕事に就きたい。そして、あの笑顔を、画面越しではなく、直接見たい。

水泳が好きではないと言う友達の原因に、今はただ理解できる。水の中で溺れてしまったり、津波などの災害が起こってしまったりすることがあるからだ。それでも、生きるために水は、私たちにとつて欠けてはならない貴重な資源である。もし、私たちの前から水が消えたらどうなるのだろうか。当然、私の好きな水泳はできなくなるし、生きることもできなくなってしまう。

私たちにとつて、必要不可欠な水には限りがある。だからこそ、今からどのように水を使っていくのか一人一人がよく考え、失わないように共存していくことが大切だと思う。